

令和元年度 学校自己評価

重点目標	学校努力点 響く心 実る力 － 認め合う心と豊かな表現力の育成 －			
	努力目標	重点項目	主な取組内容	評価結果と課題
学習指導部	互いの考えや価値観を共有しながら、よりよい自己の創造に向かうことができる生徒の育成	<ul style="list-style-type: none"> ○「なかまなビジョン」に基づく授業の工夫 ○学習環境の充実 ○基礎的基本的な学力の定着のための基盤づくり 	<ul style="list-style-type: none"> ○学習指導形態の工夫 ○授業研究等の実施 ○表現力につながる読む力・書く力を高める活動 	<p>教員それぞれが教材研究等を積極的に進めており、朝学習・朝読書、家庭学習用の課題など、学習内容の基礎・基本の定着に尽力した。しかし、学校教育アンケートにおいて、生徒は「学習内容が理解できている」と70%が肯定的に回答しているのに対し、教師側は35%ほどしか身に付いていると思っておらず、昨年度よりも低い結果であった。生徒の学力が教師が目指すまでに届いていないものの、生徒側は現状に満足してしまっている現状が背景にあると考えられる。授業力向上を目指すとともに、家庭学習が習慣化されるようにさらに働きかけをしていく必要があると考える。</p>
進路指導部	自己の将来を見据え、解決すべき課題を見つけ、取り組むことができる生徒の育成	<ul style="list-style-type: none"> ○進路への関心 ○進路の主体的な設定と決定 	<ul style="list-style-type: none"> ○進路学習 ○職業学習 ○教育相談・進路相談 ○進路決定 	<p>1・2年生では行事を含めた学校生活を通して、学習への取り組み方や生活態度、集団の役割など、中学生としての生活の基盤を築き、積み上げていった。1年生では市内分散学習や、地域の方を招いて職業に関する講演をしていただき、2年生では職場体験学習を通して、働くことの意義を考えたり、それぞれの職種の特徴について気付いたりすることができた。3年生では、上級学校の進路講演会を行ったり、体験入学に参加したりすることによって、自分の将来について前向きに考えられるようになった。今後は、自分の進路について考えたことから、どのように行動に移せばよいか、考えられるように指導していきたい。</p>
生徒指導部	服装や持ち物、時間など学校のルールを守って行動する規範意識を高め、集団の一員として自らを律した生活ができる生徒育成	<ul style="list-style-type: none"> ○授業規範の確立 ○基本的生活習慣の定着 ○いじめの予防 ○不登校生徒への対応 	<ul style="list-style-type: none"> ○チャイム着席の呼びかけ ○挨拶運動 ○いじめに関する指導 ○SCや子ども応援委員会との連携 	<p>チャイム着席については、室長からの声掛けもよく見られ、教師の声掛けがなくても3分前になったらほとんどの生徒が着席することができている。また、時間に余裕をもって登校する生徒が増え、朝の活動に落ち着いて取り組むことができている。挨拶は生徒会活動の取り組みもあり、地域の方からもお褒めの言葉をいただいた。しかし、SNS上でのからかいや人間関係のトラブルが多くみられた。正しいことを判断して行う実践力を育てていくことが必要である。</p> <p>近年不登校生徒の増加が課題となっている。なごや子ども応援委員会や外部機関との連携をしっかりと取り、1人ひとりの状況に応じて対応することが、これまで以上に求められる。今後も専門家からの確にアドバイスを受けながら、指導を進めていきたい。</p>

	努力目標	重点項目	主な取組内容	評価結果と課題
保健指導部	自分の体を自分で守ることができる生徒の育成	<ul style="list-style-type: none"> ○熱中症予防と対処 ○風邪・インフルエンザなどの冬の疾病予防 ○心と体の健康を推進 	<ul style="list-style-type: none"> ○保健だよりを通じた生徒。家庭への呼びかけ ○保健委員会の活動と換気チェック活動 ○生徒集会での保健委員会の発表 ○思春期セミナー ○薬物乱用防止の講演と標語作成・応募 	<p>保健室の利用状況は、内科・外科とも10月がピークとなった。天候不順の寒暖差による疲れが原因であったと思われる。その後は安定した。保健室利用についてルールやマナーを守って利用することができる。今後も生徒の心に寄り添いつつ、ルールやマナーを徹底させていきたい。</p> <p>委員会活動では、「保健委員会だより」や掲示物の作成を行い、健康管理への喚起を行うことができた。2月には生徒集会で「インフルエンザ予防について」の映像による発表を行い、新たなインフルエンザ罹患者がでなように健康に留意することを呼びかけた。また、「換気チェック活動」をおこない、放課中の教室の換気を促す働きかけをした。</p> <p>健康診断後に受診勧告のお知らせを配付しているが、受診報告の回収率が低く、再発行している。回収率が上がるように声をかけていきたい。</p>
特活指導部	自主的・主体的に学校生活を送り、集団の中で個性を生かす力を身に付けることができる生徒の育成	<ul style="list-style-type: none"> ○年間計画に則した生徒委員会の運営 ○地域社会へのつながりと他者を思いやる心の育成 ○生徒の手による行事の運営 ○生徒が団結できる場の設定 	<ul style="list-style-type: none"> ○各委員会の活動 ○お年寄りとの交流会 ○学級旗制作 ○長縄跳びの運営 ○3年生を送る会 	<p>生徒が自主的・主体的に学校生活を送る態度を身に付け、集団の中で個性を生かす力を身に付けることができるようにするために、生徒議会、各委員会、執行部会で様々な取り組みを行った。</p> <p>また、3年生を送る会では、「感謝」をテーマに取り組んだ。今年度も生徒会の出し物だけでなく、学年の出し物として、1年生は会場装飾、2年生は劇、10・11組は演奏を行った。3年生からは、お世話になって先生へのメッセージを贈ることで、「感謝」というテーマを体現した。今後は、よいものを引き継いでいきながらも、新しい内容にチャレンジしていきたい。</p>
道徳教育	自分の行動を振り返り、他者との関わりについて考え、自他の生命を尊重する生徒の育成	<ul style="list-style-type: none"> ・規律を守り、礼儀正しく行動する ・周りの人や相手の気持ちを考える ・自分の生き方を真剣に考えようとする ・時と場所、相手を考えて言動をする ・思いやりと感謝の気持ちをもつ 	<ul style="list-style-type: none"> ○月2回を最低限のノルマとして、一斉道徳授業の実施 ○朝・帰りの会、集会などにおける道徳的講話 ○日常的な指導 	<p>講義形式ではなく、課題やテーマに対して、主体的に自分の考えをもち、少人数のグループ内で対話する形での授業になるよう努めた。</p> <p>また、生徒自身が問題意識をもち、自己をみつめ、道徳的価値を自分の生活の中で捉えさせ、自己の生き方について学習する実践を取り入れた。そのため、各行事や学級力レーダーチャートの結果と関連させた題材を『とびだそう未来へ』や『明るい人生』などから選んだりした。</p> <p>さらに、思いやりのある行動をとれるようにしたり、公正な考え方ができるようにしたり、食品ロスを少なくしたりする生徒を育成するような授業を教材を変えながら行ってきた。しかし、まだまだ個人間のトラブルで悩む生徒や、自分の言動が他者にどのように影響するのかを考えられない生徒や、平気で嫌いな食材を残す生徒が多い。相手の気持ちを考え、思いやりのある生徒の育成を継続的に進めていきたい。</p>

	努力目標	重点項目	主な取組内容	評価結果と課題
第1学年	協働的な取組の中で、自己を表現できる生徒の育成	<p>○学年目標「凡事徹底」を実現するための三本柱を設定する。</p> <p>①時を守る ②場を清める ③礼を尽くす</p> <p>○協働的な活動を取り入れる ○各行事における表現活動（EXPO）の実践</p>	<p>○時間を意識させる声掛け ○学習環境の整備 ○学習習慣の確立 ○学ぶ喜びを感じさせる基礎学力コンクールの実施 ○自らの生き方を考えさせる進路学習 ○リーダーを中心とした学年レクリエーション ○めあてと振り返りを大切にした行事への取組</p>	<p>今年度で、一年間の学習リズムはつかめたと思われる。また、基礎学力コンクールに粘り強く取り組むことができた。しかし、学習習慣が定着していない、提出物の遅れなど課題は多い。</p> <p>学んだことを EXPO として、他にフィードバックする取組は、生徒が振り返りをするには効果をあげているが、それを高めていくことには課題が残った。他の振り返りをみてどのように感じたか、以前に比べてどのような成長を感じているかなどを記述させるなどをしてきたいと考える。</p> <p>また、室長を中心とした、学年レクリエーションはよりよい学年集団を作る上で成果をおさめているので、2年稲武野外学習など、大きな行事につなげていきたい。そのためにも、自分たちで作り上げる喜びを感じさせられるような、取組が必要であると考えます。</p>
第2学年	集団生活を送るのに必要な生活の基盤を固め、他と高め合い、自分に厳しく努力をすることができる生徒の育成	<p>○TPO に合わせたあいさつがきちんとできる ○集団生活のルールを守り、お互いに指摘し合うことができる ○積極的に授業に参加し、基礎学力や応用力を身につけることができる ○家庭学習を行い、学力を伸ばすことができる ○自分の役割を責任をもって最後まで果たす ○何事にも高い目標を設定し、自分に厳しい態度で生活することができる</p>	<p>○チャイムで授業開始に向けた生徒同士の声かけの推進 ○基礎学力コンクールの実施 ○補充学習の実施 ○朝読書の実施 ○学年議会や行事の実行委員など、生徒が中心となる取り組み ○学年集会や朝の会等での職員による講話 ○生活ノートの活用 ○マイペースの活用</p>	<p>○ 集団生活のルールを守り、お互いに指摘し合うことができる（生活） 学校での基本的な生活習慣は整ってきている。朝の登校時間は全体的に早く、「8：17朝学開始」はどのクラスでもできている。授業開始前の3分前着席はお互いに指摘し合い、時間を守ろうとする意識が集団からうかがえる。その声かけが室長だけではなく一般生徒の中からも出てくるようになったことが、この1年の成果ではないかと考える。</p> <p>○ 積極的に授業に参加し、基礎学力や応用力を身につけることができる（学習） 積極的に挙手をしたり、グループ活動で発言をしたりする生徒は固定してきている。ただし、声には出さないが一生懸命に発問に対する答えを考え、優れた答えを記入している生徒も多くいる。一方で、授業の用意の忘れ物は少なくない。毎日授業の用意を確認しているにも関わらず用具がそろっていないということは、授業に対する積極性に欠けると捉えられる。まずは用具をそろえて授業に参加できることをさせたい。</p> <p>基礎学力コンクールでは、朝学中心の基本的な問題を作成することにより、低学力の生徒も意欲的に取り組んでいた。</p> <p>○ 自分の役割を責任をもって最後まで果たす（特活） クラスの当番・係・委員会、体育大会や合唱コンでの自分の役割、校外学習での自分の分担された仕事など、自分の役割を果たそうとしている生徒は多い。稲武野外学習では、「生徒稲武を完成させる」という目標をもとに、実行委員を立ち上げ、活動した。生徒が自ら考え実行できるように成長した。この経験を来年度の特別活動にも生かしていきたい。</p>

	努力目標	重点項目	主な取組内容	評価結果と課題
第3学年	<ul style="list-style-type: none"> ○ 互いを深め合える集団 ○ 自主的な学習習慣の定着 ○ 自らを律することができる生徒 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 授業規律の確立と、学習環境の整備 ○ 家庭学習の習慣化や積極的な授業参加 ○ 協力して行事に取り組む集団づくり ○ 挨拶の励行 ○ 学校生活での決まり・時間・ルールへの遵守 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 学年集会や短学活などにおける教師の講話 ○ 生徒が中心となる学年議会や行事 ○ 学級カレダージャーナルの活用 ○ 朝読書・朝学習の実施 ○ チャイムで授業開始、忘れ物や提出物に対する意識の向上 ○ 補充学習や振り返り活動の実施 ○ ルールの必要性にも目が向けられる学校生活 ○ 道徳一斉授業の実施 ○ 生活ノートへの活用 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 朝学習をもとにした「朝学コンクール」を行ったり、進路教材を活用したりして、既習内容の定着を図った。また、定期テストにおいては、質問教室、テストに対する自己評価などを行い、向上心を育んだり自分の取り組みに対する振り返りを行ったりした。そうした働きかけによる一定の成果は出たが、家庭学習の定着には課題が見られた。 ・ 学年集会や短学活など教師の講話だけでなく、学年議会を中心とした生徒間の声掛けにより、集団としての自浄力を高めることができた。また、行事ごとにクラス目標を設定し、その目標に向かって取り組ませたことで、クラスや学年の団結力の高まりにつながった。互いのよさを認め合い、生徒間での声掛けがより活発になるとさらによかった。 ・ 2分前着席の徹底を図り、授業の予習や読書をするなど落ち着いた時間を過ごし、休み時間と授業のけじめをつけることができた。また、生活ノートの活用や教育相談の時間を利用し、ふだん生徒個々の悩みや不安を解消できるように対応することができた。学校生活全般において、ルールをきちんと守ろうとする姿だけでなく、ルールの必要性を意識することができる生徒もいた。一方で、SNSなどのトラブルがあり、情報教育の難しさが浮き彫りになる場面もあった。
特別支援学級	<ul style="list-style-type: none"> ○ ルールやマナーを意識して学校生活をおくる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 時間を意識させた声かけ ○ 適切な会話の指導 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 放課中も教室にて生徒の様子を観察する。 ○ 何かトラブルがあった場合、時間をかけ何度も指導する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ この一年を通して、時間に対する意識は少しずつ高まり、2分前着席も多くの生徒が実践することができた。日記指導を通して自分の思いを伝えることができるようになり正しい言葉遣いもでき始めた。また、友達との関わり方も、クラス内でトラブルが起きた際にすぐに対応し約束などを決めることで生徒間のトラブルも減ってきた。 まだまだ、相手の気持ちを考えての行動ができない場面もあるので、引き続き指導をしていく必要がある。